### 四国災害アーカイブス



一般社団法人 四国クリエイト協会

#### はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえるようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成24年7月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成25年7月からは第二弾として土砂災害、渇水の情報を追加、平成26年7月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国 災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成 24年7月以来、毎月、四国災害アーカイブスのWEBサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には平成31年 (令和元年)度分Vol.82~93(2019年4月~2020年3月) のコラムを編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブス が四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っ ています。

令和2年4月

一般社団法人 四国クリエイト協会 理事長 工藤 建夫

### 目 次

<mark></mark> Vol.82 (2019 年 4 月) <mark>水争い</mark> ······1
・久米池の水争い(香川県高松市)
・菖蒲堰の水論(愛媛県東温市)
■Vol. 83 (2019 年 5 月) 石段のここまで・・・・・・ 5 ・天椅立神社の石段(徳島県東みよし町)
・太平寺の石段(高知県四万十市)
■Vol. 84(2019 年 6 月)水騒動の結末・・・・・・・・9
・二頭出水の水騒動(香川県善通寺市)
<ul><li>明和8年の水騒動(愛媛県砥部町、松山市、松前町)</li></ul>
<mark>■</mark> Vol.85(2019年7月)台風による土砂災害・・・・・・13
・昭和 51 年の台風 17 号(徳島県美馬市)
・昭和50年の台風5号(高知県いの町)
<mark>■</mark> Vol.86(2019年8月) <mark>慈雨を期待して・・・・・・・・・・・</mark> 17
・加茂神社の雨乞い(愛媛県今治市)
・鰹宇神社の雨乞い(香川県高松市)
➡Vol. 87(2019 年 9 月)浸水位の記録・・・・・・・ 21
・舞中島大洪水記録柱(徳島県美馬市)
<ul><li>大津地区水害記録碑(高知県高知市)</li></ul>

■Vol.88 (2019 年 10 月) 宝永地震による崩壊····· 25
・五剣山の崩壊(香川県高松市)
・加奈木の崩え(高知県室戸市)
【 Vol. 89 (2019 年 11 月) 土石流、山津波、鉄砲水・・・ 29
・昭和 47 年の集中豪雨(愛媛県今治市)
・昭和 51 年の台風 17 号(徳島県美馬市)
【 Vol. 90 (2019 年 12 月) 昭和南海地震······ 33
・地盤沈下による被害(香川県東かがわ市)
・津波による被害(高知県須崎市)
■Vol. 91 (2020 年 1 月) 敬渝と懲毖・・・・・・ 37
• 敬渝碑(徳島県松茂町)
・安政地震の碑(高知県香南市)
■Vol.92 (2020年2月) 語り継がれる人・・・・・・・・・ 41
・藤森堤を築いた原喜右衛門(徳島県つるぎ町)
・蒼社川を改修した河上安固(愛媛県今治市)
【 Vol. 93 (2020 年 3 月) ため池と庄屋・・・・・・・ 45
· 打越下池(香川県丸亀市)
・堀江新池(愛媛県松山市)
■四国災害アーカイブスの概要・・・・・・・ 49

# Vol.82(2019年4月)水争い①

### 水争い

干ばつにより水が不足する時には水争いが起こります。 解決のため、昔は水利慣行をもとに第三者による仲裁や裁 判などが行われましたが、必要な水量が確保されない限り、 根本的な解決には至りません。香川県高松市と愛媛県東温 市の例では、その後、香川用水農業水利事業や道前道後平 野農業水利事業などにより解決が図られることになりま す。

### ■久米池の水争い(香川県高松市)

久米池は寛永年間 (1624~1644) に春日村と新田村 (高松市春日町・新田町)の水田を養うために築造されました。その後、明和8年 (1771) に増築され、下流の東潟元村と西潟元村 (高松市屋島西町) が受益地に編入されました。明治10年 (1877) 夏、西潟元村で田植え水が不足したため、久米池からの配水を要請したところ、春日村と新田村から拒否されました。久米池では、新掛かりの東・西潟元村に対し、水利費は平等に負担させながら、用水は田植え後の補給水しか認めない「足し水の慣行」が続いていました。このため、東・西潟元村は平等配水を要求して裁判所に提訴しました。裁判は第一審、第二審を経て、明治17年に大審院で江戸時代から続く水利慣行を認める最終判決が下りました。<香川県土地改良事業団体連合会編「香川県土地改良事業団体連合会 50年史」2008年など>





# Vol. 82(2019 年 4 月)水争い②

### ■菖蒲堰の水論 (愛媛県東温市)

菖蒲堰には「大落水(おおおちみず)」という水利慣行がありました。これは菖蒲堰の下堰側で用水が不足し、番水制度を実施してもなお満たされない場合に、上堰側の北方村に請求して、分水の一部を受益するというものでした。明治9年(1876)6月30日、干ばつのため下堰側が大落水を請求しましたが、上堰の北方村がその執行を遅らせたため、下堰側の農民数百人が堰に集結して、堰を切り崩しました。双方に負傷者が出た事態を収拾するため、巡査や戸長が仲介に入りましたが解決されず、結局、7月7日に下堰側の樋口・志津川・西岡3ヶ村は愛媛県権令に解決を依頼しました。愛媛県は調査した上で、上堰の北方村と下堰側の3ヶ村に指示を出し、一応の政治的な解決をみましたが、根本的な解決はなされませんでした。<重信町誌編纂委員会編「重信町誌」1975年など>

※菖蒲堰では昭和38年に上堰と下堰の統合が行われました。





# Vol.83 (2019 年 5 月) 石段のここまで①

### 石段のここまで

お寺や神社の石段に洪水時の水位が記録されていることがあります。寺社は地域の中で比較的高い位置にありますが、石段に達した水位の高さを知らせることで、人々に 洪水への備えの大切さを伝えています。徳島県東みよし町 と高知県四万十市の例をご紹介します。

### ■天椅立神社の石段(徳島県東みよし町)

昭和29年(1954)9月13日、台風12号(ジューン台風)により、吉野川上流域で記録的な豪雨となったため、岩津上流部の三好・美馬・麻植郡の各地区では家屋の全壊・流失・浸水が続出しました。三好町(現東みよし町)では、吉野川が暴れ川となり田畑が冠水して甚大な被害をもたらす大洪水のことを「島づけ」と呼び、早明浦ダムや池田ダムができるまでは10年に1回くらいありましたが、この時にも吉野川沿いは「島づけ」となりました。洪水の水位は昼間の天椅立(あまのはしだて)神社の石段12段目まで達したことが記録されています。<三好町史編集委員会編「三好町史地域誌・民俗編」1996年及び徳島地方気象台編「徳島県自然災害誌」2017年など>

※ジューン台風とジェーン台風が間違われることがありますが、ジューン台 風は昭和29年の台風12号で、ジェーン台風は昭和25年の台風28号です。





# Vol. 83 (2019 年 5 月) 石段のここまで②

#### ■太平寺の石段(高知県四万十市)

昭和10年(1935)8月28日、台風による風雨が激しくなり、中村町(現四万十市)では渡川(四万十川)と後川の水位が刻々上昇しました。28日午後2、3時頃には宮田小路、南京町、新町方面が浸水し、5、6時までには築地を残して全町が浸水しました。低所では水位は階上数尺にも及び、両川岸の百笑、不破、右山、角崎は大海のようでした。濁流は四万十川鉄橋橋台の頂上を洗い、後川堤防は余すところ3尺ほどの危機に瀕しました。中村町は、浸水というよりも沈没という言葉が当てはまる有様でした。最高水位は29日午前1時に渡川の具同で12.07m、後川の大用寺で10.31mに達しました。右山五月町の太平寺の石段14段目に最高水位標が設置されています。<中村町編「中村町風水害史」1938年及び中村市史編纂委員会編「中村市史」1969年など>





## Vol. 84(2019 年 6 月)水騒動の結末①

### 水騒動の結末

昔、干ばつ時には各地で水騒動が起こりました。時には水利の慣行や協定を破って我が田に水を引き入れるために水門や樋を壊すなどの実力行使が行われ、それをめぐって騒動が大きくなることもありました。香川県善通寺市と愛媛県砥部町等の例をご紹介します。

### ■二頭出水の水騒動(香川県善通寺市)

文政6年(1823)、大干ばつとなりました。二頭出水(ふ たがしらですい) は平常、下流の上吉田村、下吉田村、稲 木村の水田を養いますが、干ばつ時には善通寺の古寺領分 も取水の権利を持っていました。6月、善通寺領の主水源 である大池が干し上がったため、寺領側は二頭出水からの 取水を申し出ましたが、村側は日延べ要求をするなどして 意見が対立し、ついに7月19日の寺領の5回目の取水日 には二頭出水の水門が抜き上げられて湧水が空っぽにな っていました。容疑者として上吉田村の百姓親子が浮かび 上がり、丸亀藩に上訴されることになりましたが、藩の判 決前に西光寺などが善通寺と村側の間に入って内済を進 め、百姓親子が善通寺に詫び証文を入れる形で和議が成立 しました。善通寺側の雅量が穏便な結果をもたらしました。 <善通寺市立図書館編「善通寺市史第二巻 1988 年、香 川県土地改良事業団体連合会編「香川県土地改良事業団体 連合会 50 年史 | 2008 年>







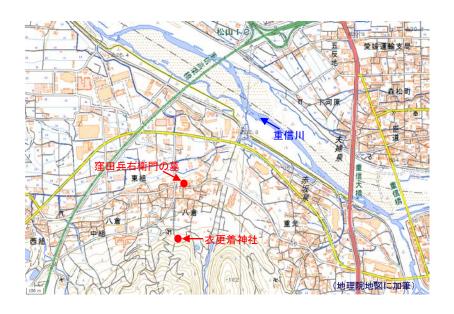
## Vol. 84(2019 年 6 月)水騒動の結末②

### ■明和8年の水騒動(愛媛県砥部町、松山市、松前町)

明和8年(1771)6月8日、大日照りのため、明和元年 (1764) に交わした覚書を破って、南神崎・徳丸・出作・ 上野・八倉の下5ヶ村の農民700人余が上・下麻生村の用 水である古樋井手の筧を切り落としたため、上・下麻生村 勢 200 余名との間で乱闘になりました。この乱闘で下 5 ヶ村側に死者2人と多数の負傷者が出ました。下5ヶ村側 に天領が含まれていたため、関係した双方の農民380人余 が備中倉敷の代官所に出頭するよう命じられました。この うち上麻生村(大洲藩領)と下麻生村(新谷藩領)の者は 初めから加害者扱いで投獄されました。厳しい取り調べが 長期化する中で、罪引受人が出ない以上許されない気配を 察し、安永3年(1774)に下麻牛村組頭の窪田兵右衛門が 自ら首謀者と名乗り出て、処刑されました。兵右衛門は義 民として衣更着神社に祀られています。<砥部町誌編纂委 員会編「砥部町誌」1978 年、松前町誌編集委員会編「松 前町誌 1979 年など>









### Vol. 85 (2019 年 7 月) 台風による土砂災害①

### 台風による土砂災害

台風に伴う集中豪雨により、山間部で山崩れや土石流な どの土砂災害が起こることがあります。堆積した土砂が河 床を上昇させ、河川の氾濫を招くこともあります。徳島県 美馬市と高知県いの町の例をご紹介します。

#### ■昭和51年の台風17号(徳島県美馬市)

昭和51年(1976)9月に来襲した台風17号は、穴吹町 (現美馬市) に豪雨をもたらし、8日~13日の降水量は古 宮地区の山間部で約2,000ミリに達しました。古宮・口山 地区では山腹の崩壊や土石流、河川の氾濫などにより、道 路が寸断され、通信が途絶え、人家が押しつぶされたり、 流されたり、田畑が埋没するなど集落が全滅するような大 惨事に見舞われました。被害は死者1人、行方不明1人、 負傷者3人、家屋の全壊78戸、半壊48戸等に及びました。 穴吹町では、被災住民に対して住家移転希望の調査を行い、 昭和53~54年に集団移転の意向の強い集落の70世帯268 人が移転しました。移転先の初草、拝村、小島の各住宅団 地には防災移転記念碑が建立されています。<穴吹町編 「災害とたたかう 台風 17 号記録」1979 年、穴吹町誌編 さん委員会編「穴吹町誌」1987年>





## Vol. 85(2019 年 7 月)台風による土砂災害②

### ■昭和50年の台風5号(高知県いの町)

昭和50年(1975)8月17日、台風5号により、伊野町(現いの町)では16時~17時の1時間に105ミリの降雨量を記録し、町の市街地の大部分が水没し、町内各地で山や崖が崩壊しました。中でも町北西部の山間地区では土石流が谷を一気にかけ下り、人命や家屋を呑み込みました。被害は死者23人、重傷者16人、軽傷者35人、建物の全壊128戸、半壊100戸、一部破損156戸、床上浸水2,083戸等に及びました。被災から1ヶ月後の9月17日に犠牲者の合同慰霊祭が行われ、25年目にあたる平成12年8月には追悼式典が挙行されました。神谷割石に23人の殉難者の慰霊碑が建立されています。<伊野町総務課編「台風5、6号'75 災害の記録」1977年、伊野町編「昭和50年台風災害 25年記録誌」2001年、いの町史編さん委員会編「いの町史」2015年>





## Vol. 86(2019 年 8 月)慈雨を期待して①

### 慈雨を期待して

四国の瀬戸内側は雨が少なく、干ばつに見舞われやすい 特性を有しています。ダム建設や大規模な用水事業が行わ れるようになるまでは、神社などで雨乞い祈願が行われま した。慈雨があるときもないときもありました。愛媛県今 治市の加茂神社と香川県高松市の鰹宇神社の例をご紹介 します。

### ■加茂神社の雨乞い(愛媛県今治市)

延宝6年(1678)夏、干ばつのため、人々は大いに苦しみました。諸寺諸社で雨乞いが行われたものの効験がありませんでした。そこで野間郡の代官吉田杢左衛門が斎戒沐浴して新衣を被り飲食を断って加茂神社の神殿にお籠りして雨乞いし、社司池内氏も同じく食を絶ち内陣で心を込めてお祈りしました。すると、雲が起こり、雨が降り、その年は思わぬ豊饒を得るに至ったそうです(松山叢談(宇佐美家記)による)。加茂神社ではこの後も雨乞いが行われ、菊間町誌によると享保9年(1724)から安政3年(1856)までの間に加茂神社で雨乞い祈願が30回行われたことが記録されています。〈神原健編「愛媛県気象史料」1952年及び菊間町誌編さん委員会編「菊間町誌」1979年〉





# Vol. 86(2019 年 8 月)慈雨を期待して②

### ■ 鰹宇神社の雨乞い(香川県高松市)

昭和14年(1939)、十河村(現高松市)は明治27年(1894)以来の大干ばつとなりました。6月12日に梅雨に入り、6月26日に四箇池のゆる抜きで田植えが始まりましたが、田植え終了後も雨に恵まれず、用水不足となりました。日一日とため池の水は減り、神内池、松尾池、城池、公渕池は無水状態となりました。県が各市町村に対して雨乞い祈願をするように通達したので、7月26日には鰹宇(かつう)神社で雨乞い祈願が行われましたが、効果はありませんでした。8月1日には平田池が無水状態になりましたので、各地で急ごしらえの井戸堀が行われました。土びんで水をかけることなどもしましたが、8月下旬には田一面が真っ白に乾き、実に哀れな収量の年でした。<十河歴史研究会編「十河郷土史」1992年及び高松百年史編集室編「高松百年史上巻」1988年>





## Vol. 87(2019 年 9 月)浸水位の記録①

### 浸水位の記録

水害時の浸水位が石柱や石碑に記されていることがあります。地域で暮らす人々に水害に備えることの大切さを伝えるとともに、再び水害が起こらないようにという願いが込められています。徳島県美馬市と高知県高知市の例をご紹介します。

### ■舞中島大洪水記録柱(徳島県美馬市)

>

昭和29年(1954)9月13日、台風12号により、四国山脈は南東の強風と異常な豪雨に見舞われ、大歩危で572ミリを記録しました。吉野川は大洪水となり、穴吹町(現美馬市)の舞中島では水位がそれまでの最高水位よりも1尺(30cm)高い所まで達しました。舞中島では洪水に備えて、屋敷めぐりに1~1.5mの石垣を積み、その上に中二階の家を建てていましたが、この時の洪水でもほとんどの家が軒まで水に浸かり、荷物を大和(屋根裏に数多くの竹の桟を平行に並べてその上に土をあげてかためたもの)にあげて一夜を明かしました。光泉寺は高さ8尺(240cm)の石垣の上に本堂と庫裏がありますが、浸水位は座上2尺(60cm)ほどに達しました。本堂脇に舞中島大洪水記録柱が設置されています。<笠井藍水編「新編美馬郡郷土誌」1957年及び穴吹町誌編さん委員会編「穴吹町誌」1987年





# Vol. 87 (2019 年 9 月) 浸水位の記録②

### ■大津地区水害記録碑(高知県高知市)

平成 10 年 (1998) 9月 24 日末明から 25 日朝にかけての豪雨により、高知市は水害に見舞われました。中でも国分川・舟入川の被害は甚大で、家屋・事業所等の床上浸水 4,213 棟、床下浸水 1,955 棟、田畑の冠水 1,420ha に及びました。過去の浸水被害をはるかにしのぐ規模で、一般の家屋以外にも、県立美術館、大津食品工業団地のすべての事業所、大津小学校、大津中学校などが水没しました。大津ふれあいセンター前の大津地区水害記録碑には、2 つの水位が刻まれています。地面からの高さを測ると、昭和47年9月の国分川決壊最高水位が138cmであり、平成10年9月の集中豪雨最高水位は223cmでした。碑の裏面には再び災害のないことを願って建立したことが記されています。<大津地区町内会連合会、大津地区コミュニティ計画推進市民会議編「'98 高知豪雨災害大津地区の記録」1999年及び高知県土木部河川課編「'98 高知豪雨」など>





## Vol. 88(2019 年 10 月)宝永地震による崩壊①

### 宝永地震による崩壊

南海トラフの巨大地震により斜面災害が発生すること が懸念されています。四国では過去の地震時に大規模な斜 面崩壊が起こったことが分かっています。宝永 4 年(1707) の宝永地震により発生した五剣山の崩壊と加奈木の崩え (つえ)の例をご紹介します。

### ■五剣山の崩壊(香川県高松市)

宝永 4 年(1707)10 月 4 日の地震により、香川県牟礼町と庵治町(いずれも現高松市)の境に位置する五剣山の東端の峯が崩壊しました。増補高松藩記には、「未の時(午後 2 時頃)地大いに震える。声は雷の如く、地裂けて水湧き出す。河海に瀬ゆる砂地は特に甚し。五剣山東の一峯崩墜して火花雷の如く、響き遠く聞ゆ。墓石は悉く倒れ、井筒皆突き出し、家屋壊崩し、結構堅固なりと唯一として傾かざるなし。」と記されています。牟礼町教育委員会・香川大学工学部長谷川研究室の調査(2002 年)によれば、崩落した岩塊は、北部の峯が主として庵治町側を、南部の峯が牟礼町側を襲ったと推定されています。 <高松市編「庵治町史」2007 年、牟礼町教育委員会・香川大学工学部長谷川研究室「1707 年宝永地震による五剣山の崩壊に関する調査研究報告書」2002 年など>





## Vol. 88(2019 年 10 月)宝永地震による崩壊②

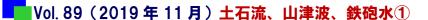
### ■加奈木の崩え(高知県室戸市)

加奈木の崩えは、高知県室戸市の佐喜浜川源頭部に位置 します。崩壊は約 45ha に及ぶ大規模なもので、最大幅が 約 500m、崩壊最下流部から最上流部までの水平距離は 1.600mに及びます。宝永 4年(1707)の地震時に大規模 崩壊が発生して岩屑流堆積物が堆積し、延享3年(1746) の豪雨により十石流が発生して 2 次堆積物が堆積したと 推定されています。その後台風や地震のたびごとに崩壊を 繰り返し、崩壊土砂は土石流となり、佐喜浜川中下流域に 被害を与えました。崩壊の原因の大部分が国有林の崩壊に あるため、大正6年(1917)から昭和39年(1964)にか けて直轄治山事業が行われました。佐喜浜川沿いに記念碑 が建立されています。<長谷川修一「四国における地震に よる深層崩壊と大規模地すべり」(砂防学会研究発表会概 要集 Vol. 61、2012 年)、北代典史「大規模崩壊地(加奈木 のつえ)の復旧により地域を保全した大道南山復旧治山事 業」(水利科学 No. 352、2016 年) など>









### 土石流、山津波、鉄砲水

集中豪雨や台風により大雨が降ると、土石流が発生することがあります。山腹や川底の土砂と水が一体となって一気に急な渓流や斜面を流れ下る現象で、山津波、鉄砲水とも言います。愛媛県今治市と徳島県美馬市の例をご紹介します。

#### ■昭和47年の集中豪雨(愛媛県今治市)

昭和47年(1972)9月8日~9日の集中豪雨により、今治市で173ミリ、玉川町三反地で280ミリを記録し、今治市、玉川町、朝倉村(いずれも現今治市)で被害が出ました。今治市では河川が氾濫し、土砂崩れが長沢、乃万など7箇所で発生し、予讃線も2箇所で不通となりました。今治市の被害は住宅の全半壊15戸、破損71戸、床上浸水972戸などに及びました。朝倉村では満願寺の大師堂が山津波で倒壊し、玉川町では局所的な集中豪雨が地すべりや鉄砲水を引き起こし、谷山川などの河川が氾濫して、神子森で4人が亡くなったほか、重軽傷者5人、住家の全壊16戸、半壊35戸、床上浸水81戸などの被害が出ました。<今治郷土史編さん委員会編「現代の今治地誌近・現代4」1990年、玉川町誌編纂委員会編「玉川町誌」1984年、朝倉村誌編さん委員会編「朝倉村誌続編」2004年>





## Vol. 89 (2019 年 11 月) 土石流、山津波、鉄砲水②

#### ■昭和51年の台風17号(徳島県美馬市)

昭和51年(1976)9月8日に台風17号が日本付近に接近し、動きが遅かったため、剣山では8日から13日までの6日間の合計雨量が1,838ミリに達しました。木屋平村(現美馬市)では、集中豪雨により山腹の地すべりと崩壊が土石流となり、川上地区の田畑、道路、橋梁、民家などを一蹴し、下流の太合・谷口カケ・谷口地区に被害をもたらしました。村内の被害は住宅の全壊28棟、半壊18棟、床上浸水14棟、田の流失・埋没81ha、畑の流失・埋没144haなどに及びました。人的被害がなかったのは、昭和50年の台風6号による惨事を繰り返してはいけないという気持ちが村全体にあったためと言われています。10年にわたる復旧工事の完成を記念して、川上地区に災害復旧記念碑が建立されています。<木屋平村史編集委員会編「改訂木屋平村史」1996年及び災害復旧記念碑の碑文>





## Vol. 90 (2019 年 12 月) 昭和南海地震①

## 昭和南海地震

73年前の昭和21年(1946)12月21日4時19分頃、南海地震が発生しました。四国では太平洋側だけでなく、瀬戸内海側でもさまざまな被害が起こりました。香川県東かがわ市と高知県須崎市の例をご紹介します。

#### ■地盤沈下による被害(香川県東かがわ市)

香川県内では昭和南海地震により死者 52人、負傷者 273 人、家屋の全壊 608 戸、半壊 2,409 戸などの被害が出ましたが、大川郡では地盤沈下に見舞われました。白鳥町(現東かがわ市)では白鳥の松原が浸蝕され、東部の新川流域の耕地も低地と化し、海水の浸入を見るに至りました。その後は排水不良に悩まされ、数十ミリの降雨でも田畑の湛水が甚だしく、住居は床下浸水が常態化しました。白鳥の松原周辺では、昭和 36 年(1961)9月の第二室戸台風及び10月の集中豪雨でも250haが水没し、民家はほとんど床上浸水となりました。昭和 38 年に県営白鳥湛水防除事業が採択、施工され、竣工碑が建立されています。<香川県農林部編「農林業の石碑」1981年、高松地方気象台編「香川県気象災害誌」1966年、四国地方経済復興開発委員会編「四国地方地盤変動調査報告書第九集」1951年>







## <mark>──</mark> Vol. 90(2019 年 12 月)昭和南海地震②

#### ■津波による被害(高知県須崎市)

須崎市では地震発生から約10分後に津波の第一波が襲 来し、その後2時間半くらいの間に津波が6、7回、20分 ほどの周期で襲来したとされています。特に第三波が大き く、波高は最高 5mと推定されています。この津波で特に 被害が大きかった地区は、須崎市街地の堀川以北で、予期 しなかった古倉方面(現在の木材工業団地)からの津波侵 入、避難の遅れ、流木が避難進路を塞いだことなどが被害 を大きくしたと考えられています。須崎市の被害は死者 58 人、行方不明者 3 人、負傷者 140 人、家屋の全壊 198 戸、半壊 563 戸、流失 168 戸、船舶の流失 683 隻などに及 びました。須崎八幡宮に南海大地震遭難者追悼之碑が建立 されています。<須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974 年、同「須崎市史平成26年編」2015年、須崎史談会「須 崎史談第25号(南海大震災回顧特集号) 1976年など>





## Vol. 91(2020 年 1 月)敬渝と懲毖①

## 敬渝と懲毖

安政地震に関する碑が四国各地に建立されています。先 人が子孫のために残したもので、被害の様子や教訓などが 記されています。徳島県松茂町の碑には「敬渝」(けいゆ) の文字が、高知県香南市の碑には「懲毖」(ちょうひ)の 文字が刻まれています。

### ■敬渝碑(徳島県松茂町)

安政元年(1854) 11月4日、5日に地震が発生し、それに伴い津波や地鳴り、地割れ、などが起こったため、松茂の人々は木津山、大谷山に避難して山ごもりをしました。中喜来、川内の古川、沖島の善集寺では火災が発生しましたが、消火に当たることもできず、焼けるにまかせました。長岸の氏神の境内では1尺5、6寸の地割れが起こり、潰れた家は長岸で10軒、中喜来で20軒にも及びました。長原では50軒が全壊または大破し、渡海中の渡船が津波にあい男女4、5人が流死しました。豊岡新田などでは大手の堤防が決壊し、田畑が潮入となりました。こうした惨状を子孫に伝えて教訓とするため、三木与吉郎光治は中喜来の春日神社に敬渝碑を建立しました。敬渝とは「変をおろそかにしない」という意味です。<松茂町誌編纂委員会編「松茂町誌上巻」1975年など>





# Vol. 91(2020 年 1 月)敬渝と懲毖②

#### ■安政地震の碑(高知県香南市)

安政元年(1854) 11月4日辰刻(午前8時)、地震が発生しましたが、岸本浦の地曳網が流されたり、夜須浜で潮の変調が感じられる程度でした。本格的な地震は翌5日で、七ツ時(午後4時)に大地震が起こり、午後5時頃に1番波、2番波が、午後6時過ぎに3番波、4番波が到来し、午後7時に大地震が起こり最大の5番波がやってきて、流家が出ました。香我美町(現香南市)岸本の飛鳥神社境内に建立された安政地震の碑には、「幸甚なるか此地は神祇の加護によりて一人の怪我もなく」と記されており、他地域に比べて被害が少なかったことが記されています。しかし、碑には「懲毖」の文字が大きく刻まれ、後世の人々に地震・津波に油断しないように警告しています。<香我美町史編纂委員会編「香我美町史上巻」1985年及び同「香我美町史下巻」1993年など>





## Vol. 92(2020 年 2 月)語り継がれる人①

## 語り継がれる人

江戸時代に度重なる洪水で人々が苦しむ様子を見て、川を治めるために努力した人がいました。人のために尽くした先人たちは今も地元で語り継がれています。徳島県つるぎ町の原喜右衛門と愛媛県今治市の河上安固をご紹介します。

### ■藤森堤を築いた原喜右衛門(徳島県つるぎ町)

江戸時代初期の吉野川は今の流れとは異なり、美馬橋付 近から南東方向に向かい、貞光川と合流して北東に流れて いたため、貞光付近は度々洪水に見舞われていました。貞 光代官の原喜右衛門は貞光村北川原に堤防を築いて、吉野 川を美馬橋付近から東流させることにしました。この堤防 工事には、貞光村の夫役だけでは足りずに、近隣7か村に も夫役が命じられましたが、その夫役が過酷を極めたため、 藩主への直訴が行われました。原喜右衛門は見積違いと不 調法の廉により切腹を命じられ、腹心の従者2人も殉職し ました。明暦2年(1656)に完成した高さ4.5m、長さ524 mの藤森堤は、昭和40年代に新堤ができるまで貞光を吉 野川の洪水から守り続けました。原喜右衛門ら3人は、藤 森堤を見渡すことができる三王神社に祀られています。< 建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」 1993年、とくしま地域政策研究所編「吉野川事典」1999 年、三王堤防の標識>







## Vol. 92(2020 年 2 月)語り継がれる人②

## ■蒼社川を改修した河上安固(愛媛県今治市)

江戸時代の中頃まで蒼社川では、洪水により、度々堤防の決壊、田畑の浸水、家屋の流失などの被害に見舞われていました。今治藩は蒼社川を治めることを命じ、河上安固(やすかた)に担当させました。安固は毎日高橋の権現山に登り、蒼社川を見下ろして水の流れを詳しく調べ、蒼社川を治めるために流れを真っ直ぐに付け替えることにしました。蒼社川の川筋を直流にする工事は、安固自らも率先して農民とともに行い、着手から13年後の宝暦13年(1763)に完成しました。蒼社川の川筋では、工事が終わった後も、宗門堀(宗門帳に記された15歳から60歳までの男子全員で行う川ざらえ)を毎年行い、洪水を防ぐ努力が続けられたため、大きな洪水に見舞われることがなくなりました。〈日浅繁一郎編「今治市誌」1943年、今治市教育委員会編「今治のくらし」2009年など〉







## Vol. 93(2020 年 3 月)ため池と庄屋①

## ため池と庄屋

江戸時代、水不足に悩まされていた地域では、ため池をつくることが発案されました。ため池の築造のためには、関係者との調整や藩への請願、資金の捻出、労力の確保などの課題を解決して、みんなを引っ張っていくリーダーが必要でした。香川県丸亀市の打越下池と愛媛県松山市の堀江新池の例をご紹介します。

### ■打越下池(香川県丸亀市)

綾歌町(現丸亀市) 岡田地区は、打越下池(うちこししもいけ)ができる以前は、主な水源として打越池古池(打越上池)などがあるだけで、農民は日照りを気遣いながら、天水を頼りに細々と水田を養っていました。岡田村の大庄屋・木村甚三郎は父親の又左衛門の遺志を継いで10数年にわたり藩に打越下池の新築を請願し続け、文政10年(1827)に許可されました。許可後、甚三郎は自分の田を売って資金を捻出し、ほとんど寝食を忘れて工事に集中し、文政12年に打越下池を完成させました。打越下池の水量は打越上池の倍を誇り、3年間の工事期間に費やされた人夫は6万5千人に及びました。下流に打越下池の碑が建立されています。<綾歌町教育委員会編「綾歌町史」1976年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年>







# Vol. 93(2020 年 3 月)ため池と庄屋②

## ■堀江新池 (愛媛県松山市)

堀江村(現松山市)の田畑では郷谷川、権現川、大川などから水を引いていましたが、いつも水が不足がちで、数年に一度は干害にあっていました。そこで庄屋・門屋一郎次はため池の築造を発案し、松山藩に働きかけました。藩は許可を与え、工事費の補助と人夫のための米を与えました。村人は一丸となって作業に励み、3年の歳月をかけて天保6年(1835)に藩内最大のため池が完成しました。池の中ほどに中土手がつくられていますが、これは大風の時にできる波立ちによって堤防が壊されるのを防ぐためのもので、先人の知恵を見ることができます。堀江新池は平成22年(2010)に農林水産省のため池百選に選定されました。〈松山市堀江公民館による堀江新池の標識など〉







## 四国災害アーカイブスの概要

### ■利用の方法

四国災害アーカイブスは、インターネットを通じて利用 していただきます。

四国災害アーカイブス http://www.shikoku-saigai.com

### ■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、 29.261件です(令和2年4月現在)。

#### ■収録されている災害情報の内容

災害の	1) 地震・津波 6) 雪害
種類	2) 土砂災害 7) 火山災害
	3) 渇水 8) 大規模な火災
	4)風水害 9)その他
	5) 高潮
災害情報	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害
の概要	軽減の取り組み、等
情報収集	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの
の範囲	
情報収集	上記の情報を記載している印刷物または電子デー
対象物	タ、および現地調査情報
	・市町村史、郷土史・事業誌
	・災害記録、災害体験集・写真集
	・学術論文、雑誌論文・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真
	・原資料PDF(著作権者から許諾が得られた場合)

### ■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の3つのことを お伝えできればと考えています。

### ①身近な所に災害の歴史があります

平成23年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、渇水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

### ②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけでは ありません。できるだけ災害が起こらないように、またで きるだけ被害が大きくならないように、その時々に応じた 取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重 ねの上に、今日の四国があります。

### ③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしていただけるよう、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

### メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジン を毎月発信しています。メールマガジン の受信を希望される方は下記にメールを お送りください。

E-mail: info@shikoku-saigai.com

## **アーカイブスあらかると** Vol. 82~93 (2019 年 4 月~2020 年 3 月)

四国災害アーカイブス事務局 (一般社団法人 四国クリエイト協会) 〒760-0066 香川県高松市福岡町 3-11-22 電話 087-822-1676 FAX 087-823-8569 http://www.shikoku-saigai.com